

# 「中野区立中学校の歴史と今年度の取組」

中野区立中学校教育研究会会長 池田 俊一（第七中学校 校長）

現在の中学校はいつからできたのでしょうか。戦後の新しい学制が始まり義務教育がスタートしたのは昭和22年です。その年に中野区立中学校のナンバースクール第一中から第八中が同時に開校しました。それから徐々に学校数が増え、第九中、第十中、第十一中、中央中、中野富士見中、最後に北中野中学校が昭和35年に開校しました。そして今年度、北中野中学校は60周年を迎えます。

北中野中ができて中学校総数が14校になり48年間続きました。そのうち生徒数の減少もあり平成20年に再編成による緑野中の誕生（第六中と第十一中が閉校）、そこから南中野中（第一中と中野富士見中が閉校）、中野中（第九中と中央中が閉校）、中野東中（第三中と第十中が閉校）そして今年度、明和中（第四中と第八中が閉校）が開校し、現在は14校から9校に学校数は減りました。「生徒数の減少」と書きましたが、実際の区内の生徒数はと言いますと最も中学生の数が多かった時は昭和37年で約16,000名でした。現

在は約3,200名です。ちょうど5分の1に減少です。ちなみに本校第七中では現在生徒数319名ですが、最多数の時期には1272名が学んでいたという事です。校舎や敷地が現在のままであったと想像すると先輩先生方のご苦労も想像に難くないところです。

その中野区の先輩先生方が昭和22年から33年までの約10年間の間に作りあげ形に成してきたのが、この中野区立中学校教育研究会です。先生方自らが研究のために獲得し確保し、その時々課題解決のために力を尽くしてきた会と云うことであり、歴史とご苦労に支えられた時間と言えます。先輩先生方が残り受け継いできた大切な研究の場であり我々現任教員も使命感をもって研究に当たらねばなりません。

では、本研究会にとって今年度はどんな年なのかと言え、**「新しい中学校学習指導要領全面実施1年目に対応する年」**と言えます。そのため各教科・領域の分野で適正な実施に向け研究に入っています。教科そ

のもの指導方法の研究と更に評価評定についての様々な疑問点等を深め解決していく必要性を各分野で感じ研究のテーマにしています。特に「3観点」に変更になったことが大きいといえます。今回の改訂では「何のために学ぶか」という学ぶ意義を引き出して行くことができるようにするため「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」という観点から評価し評定していくものとなりました。

また年度のはじめから生徒一人一台のタブレットが配布され、ニューノーマル（新しい状態）の学習モデルの実現を探っていく一年目となりました。実際に使っていくなかでネット環境も含め多くの解決をしなければならぬことも順次分かってきましたが、タブレット利用の頻度を増し、鉛筆やノートの様に抵抗なく扱える「ツール」としてゆくことで生徒の学習をより豊かにできるものなのです。この利用方法も研究の一つとして準備が欠かせないところです。

さて最後になりますが、この原稿を書いている八月末、緊急事態宣言の延長・追加、まん延防止等重点措置の延長・追加が発表されました。

新たなコロナウイルス変異株の蔓延に伴う感染拡大が止まらない不安の中、もう少しで前期後半が開始されます。そんな中ですが生徒たちの学びを保障し、未来に向けて自分たちの伸びを確保し、確かな学力の確保を本研究会は目指して尽力し続けます。今後とも何卒よろしくお願いたします。

## 令和3年度 教育功労者表彰式

本会では、永年にわたり教育に尽力され、その功労が特に顕著な方々について「教育功労者表彰」を行っています。今年度は、次のとおり表彰式を開催いたします。

※来賓出席予定

中野区長・区議会議長・教育長

日時 11月11日（木）

午後4時

会場 中野区役所 7階 第8・9・10会議室